

フォーユー新聞 2026 January -新春号外- 2026 1月発行 社会福祉法人 奉優会(ほうゆうかい) 法人管理本部 154-0012 東京都世田谷区駒沢1丁目4番15号 真井ビル5階 TEL:03-5712-3770 FAX:03-5712-3771 https://www.foryou.or.jp/



すべての人の未来へ続く物語を実現する社会を創ります

・通所事業部では、リハビリ型へ機能転換し、ご利用頂いている方すべての人の夢や希望を通所介護計画書の目標に位置付けてサービスを提供します。
・公共サービス事業部では、ご利用者様に対し介護予防や就労支援を通して、地域での活躍やその人らしい生活を送れるような支援をしてゆきたいと思ひます。その為に自主グループ化を広げてその人

が地域で活躍出来る事を応援します。
・ご利用者様の夢や希望の実現の為に、職員自身がやりたい事を実現出来る職場環境を創って行きたいと思ひます。

#リハビリ型デイで夢や希望を叶える
#地域でその人らしい生活
#やりたい事を実現する職場



社会福祉事業本部 本部長
染谷 和匡

つながりを力に、多様な主体と育む地域プラットフォーム

地域包括支援センターはスタートから20年を迎え、大きな転換期にあります。相談内容の複雑化や孤独・孤立といった課題が広がる中、一人ひとりの暮らしに寄り添った柔軟な支援が求められています。まちづくり、住まい、防災、司法などの他分野とも連携・協働し、地域包括支援センターが調整役となって、カフェや集いの場、身近な相談機会を設けながら、相談の入口機能

と支援ネットワークを兼ね備えた地域プラットフォームの構築に挑戦していきます。居宅介護支援事業所では、個別支援力の向上とICT活用を進め、希望ある暮らしにつながるケアプラン作成に力を注ぎます。新たな一年も、地域のみなさまとともに歩んでまいります。

#カフェ・つながりの場づくり
#地域プラットフォーム構築 #ポジティブケアプラン



地域包括ケア事業本部 本部長
内藤 麻里

構想から行動へ ~理事長室の戦略支援~

新たな年を迎えるにあたり、理事長室では引き続き法人が目指す未来を構想し、その実現を支える存在として経営意思決定の背景や意図を丁寧に紐解き、職員一人ひとりに対しても理解しやすく、現場で活かされる情報として届けていく役割を担ってまいります。また、現場における実行支援や、取り組みを支える仕組みづくりを通じて方針展開力と実行力のさら

なる向上に貢献していきます。今後も、各部署・拠点との信頼関係を大切にしながらタイムリーかつ的確な情報共有と実行管理を軸に方針が組織全体に“伝わり”、行動につながる法人への進化を支えてまいります。

#方針が伝わる組織
#構想から行動
#経営と現場をつなぐ



理事長室 統括室長
池田 国宏

基盤強化と新たな挑戦

経営企画本部では令和8年度に向け、整備とマーケティング、DXを連動させながら、AIやデータ活用を通じて法人経営の基盤強化を進めてまいります。新規・改修整備を着実に進めるとともに、宮推体制による需要分析と情報発信を強化し、地域に選ばれ続ける事業づくりを支えていきます。また、高齢分野で培ってきた運営力を活かし、障害福祉事業への新た

な挑戦も本格化させていきます。各事業部と緊密に連携し、計画・実行・検証を一体で回すことで、迅速に経営につながる仕組みを構築し、法人全体の持続的な成長に貢献してまいります。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

#障害福祉事業
#挑戦をかたちに
#持続可能な成長



経営企画本部 本部長
河崎 賢子

和して同ぜず ~地域介護サービスを磨き、確かな信頼を育てる一年へ~

社会福祉法人 奉優会 理事長 香取 寛

新年あけましておめでとうございます。日頃より社会福祉法人奉優会への温かいご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

さて、福祉・介護の現場は、認知症や看取り(ACPの推進)、家族介護力の低下などで支援が複雑化しています。物価高や委託費の上昇、賃上げ圧力、人材確保の難しさは経営を直撃し、BCPの徹底や制度運用、ICT活用と標準化も「前提」になりました。見守りセンサーの導入は進みましたが、AIケアプランやデータ活用を日常業務に落とし込む実装や、知見を共有するための業務標準化は、なお道半ばです。

こうした状況だからこそ、私たちが軸に据えるのが「多文化共生徳義主義」です。違いを尊重し、美德をもって「善き仕事」を誠実に続けます。派手さより節度、過剰より中庸。地域の暮らしのそばで確かな信頼を積み上げ、毎日の約束を守り続けることで存在感を高めます。

また、私たちの福祉・介護は社会保障制度内の事業です。この原点を大事にし、志をもって令和8年度の事業計画を作成します。中低所得の方でも保険内で「自分らしく暮らしたい」という希望を諦めないで済むよう、「地域介護サービス」を品質と倫理で磨き、事業計画に具体化します。あわせてバックオフィス機能にも投資し、持続可能な運営の土台を固めます。

では、これらを現場でどう具体化するか。令和8年度の事業計画作成方針の中心に据えるのは、コミュニティリズム(地域の関係性を強くする経営)です。具体策は、看多機・小多機、そしてショートステイです。看多機は訪問看護も一体で提供し、医療的ケアにも対応しながら、暮らしを「つなぐ」支援を展開していきます。小多機は「通い」「泊まり」「訪問」を柔軟に組み合わせ、住み慣れた地域での生活を支えます。そして

ショートステイでは、予約・調整体制を支えるシステム開発にも投資し、地域内で切れ目なくサービスをつなげられる運用体制を整備します。加えて、困りごとが大きくなる前に相談につながる入口を増やし、医療・介護・住民・事業者が支え合えるプラットフォームをつくっていきます。あわせて、その基盤として、人材不足や制度改正、再編の波、生産性向上に向けたICT/DXにも先手で取り組みます。

そして、これらの取り組みを継続し地域に広げるため、2030年度に向けては現在の事業部制を土台にしつつ、地域制(地域単位でマネジメントする体制)へ段階的にシフトし、地域コミュニティマーケティング制へ進化させます。地域制を進めるうえで要になるのは、事業部を横断して複数の事業を束ねられるビジネスリーダーです。ただ、こうした人材は一朝一夕には育ちません。だからこそ2030年度を見据え、計画的に育成していきます。

「和して同ぜず」。違いを尊重し、目的の一つにして調和する。奉優会は人の尊厳を起点に、粛々と、強い福祉を積み上げてまいります。本年も変わらぬご指導ご鞭撻を願ひ申し上げます。

#地域介護サービス
#確かな信頼
#善き仕事を誠実に
#多文化共生徳義主義



問合せ先 社会福祉法人 奉優会ホームページ <https://www.foryou.or.jp/>



夢と希望のある法人になるために

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、奉優会では、今後の労働人口が減少する局面において、介護の担い手の確保と、良質なサービスを継続的に提供していくことが課題となっています。そのために重要となるのが、「職員の確保と育成」と、職員が未来にわたり安心して働けることができる「魅力的な職場づくり」です。中長期の事業計画に重要なのが、職員にとって夢と希望のある計画であることです。

例えば、法人が毎年5%以上の成長がないと、新たな役職やポストは生まれず、キャリアアップができません。上司先輩が定年などの退職をしないと、何十年間も同じ施設で、ほぼ同じ待遇で働き続けなければいけません。もちろん、同じキャリアで同じ場所で働くことが安心であるという方も10~20%ほどはいます。しかし、

近年は自分の成長と共に責任・権限・報酬が上がっていき新しいことにチャレンジする機会がある「法人」の方が、将来に希望が持てて、安心ができると答える職員が大半となっております。

今、地域の多様な福祉ニーズに対応していくために、一法人のサービス提供だけでなく、様々な形での連携や協働が推奨されています。先を見越した広い視野に基づき検討し、経営を行っていく必要があると考えております。

一法人単独では、法人を成長させて、職員の新しいポストを作ることが難しければ、合併や事業譲渡といった展開が必要となるということです。社会福祉法人は、これまで培った専門性と地域ネットワークを最大限に発揮して、職員のポスト開発を行い、未来にわたって希望の持てる法人と施設を作っていきたいと思っております。



#夢と希望の職場づくり
#人材育成と成長戦略
#希望の持てる法人と施設

常務理事／
施設介護事業統括本部
山川 純一

つながる力で支える地域の基盤

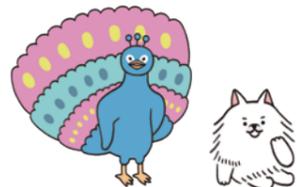
～2026年に向けた福祉のかたち～

2026年の新春を迎え、福祉・介護を取り巻く環境は大きな転換点を迎えています。高齢者人口の増加に伴う要介護度の重度化や医療ニーズの高まり、仕事と介護を同時に担うケアラーの増加など、支援ニーズは質・量ともに高度化しています。こうした変化の中で、安定した事業運営と支援の質を両立させることが、これまで以上に重要となっています。

私たち社会福祉法人は、制度運営を担う主体であると同時に、人の力によって価値を生み出す組織です。現場では、ケアマネジャーをはじめとする職員が、緊急時対応や制度外の相談など、制度上評価されにくい「シャドーワーク」を数多く担っています。今後は、こうした支援を個々の努力や経験に委ねるのではなく、組織として仕組み化していくことが、事業の継続性と安定した運営につながると考えています。

これからは、企業や事業者を含む多様な担い手と役割を分かち合いながら、地域介護を支える基盤を、より確かなものへと育てていきます。近年取り組みを進めてきた法人後見事業は、こうした支援を組織として引き受け、継続的に支えるための大きな強みです。2025年に築いた土台を礎に、2026年は人と組織の力をさらに高め、地域にとって「なくてはならない存在」としての価値を高めていく一年とします。

本年も、誠実な事業運営を通じて、希望をつなぐ福祉の実現に取り組んでまいります。



#つながる力
#地域の基盤づくり
#支援の質を育てる

常務理事／
社会福祉事業統括本部
川口 有美子

更なる人財育成と仕組み創りの年へ ～成果の最大化を目指して～

本年もよろしくお願いたします。26年目に入った奉優会の歩みは、常に「人」とともにありました。私たちが提供する福祉の価値は、制度や仕組みだけで完結するものではなく、日々現場で利用者と向き合う職員一人ひとりの想いと行動の積み重ねによって形づくられています。年男として迎える今年、そして干支が「前へ進み続ける力」を象徴する午年である今年、奉優会にとっても、これまで積み上げてきた取組みを次のステージへと加速させる一年にしたいと考えています。今年度は、仕組みを「整える年」から「走らせ、成果につなげる年」へと転換し、次の4視点を軸に取り組みを進めます。

・職員育成を経営の中心に据え、月次で人的資本データを共有することで、人の成長を

法人全体で実感できる状態をつくります。
・給与テーブル(報酬体系)の見直しと「キャリア図鑑」の整備により、自らの役割や将来像を描きながら挑戦できる環境を整えます。
・採用を年間計画として体系化し、法人の魅力発信と事業部との連携を強化することで、年間1,200人規模の安定採用を目指します。
・管理者研修B級を開講し、課長や施設長候補者の計画的育成を進め、次世代を担うリーダー層を育てます。

これらの4つの施策を計画だて、有言実行をする事が今年の私のすべき事と考えています。皆様からたくさん意見をいただき、相談しながら進めて行く所存です。

人が育ち、挑戦し続ける循環が生まれたとき、法人は大きく飛躍すると信じています。



午年にふさわしく、力強く駆け出す一年を、共に創っていきましょう。

#人的資本経営の促進
#自らの成長を描ける法人
#共に創る一年

理事／法人管理統括本部
平林 孝浩

逆風の中でも、人の力でケアは前に進む

高齢者の権利擁護が社会的に強く求められる一方、人材不足が進む中、介護現場には、尊厳を守りながらケアの品質を高め続けることが求められています。特養事業本部では、ケアでハピネスを意味する「ケアはび」を掲げています。ケアはびとは、利用者の幸せを起点に、ケアのあり方をそろえ、チームで継続的に実践していくための考え方と取り組みです。ポジティブ心理学の視点で利用者の状態を捉え、ユマニチュード

に基づいてケアのあり方を整え、ケアマネジメントを通じて、ケアの方針をそろえ、現場で実践しています。さらにICTを活用して連携を強化し、厳しい人材環境下においても品質向上を実現していきます。

#なぜケアの品質は上がるのか
#ケアはび(ケアでハピネス)
#人の力



特養事業本部 本部長
成田 寛一郎

在宅生活を起点としたインテグレーションケア ～「家括」～

新年あけましておめでとうございます。在宅支援を担う人材の確保が難しさを増す中、訪問を軸とした支援体制の再構築に取り組む中で生まれたのが、「家括」という考え方です。家括は、快適さと自立、そして誰かにつながっていく日常を支え、その人が自宅での暮らしを続けられるよう支援する仕組みです。そこには、地域と関わる中で人が育ち、育った人が希望をもって地域を支え、再び地域が人を育てていくという循環があ

ります。その循環が、持続可能な在宅生活を支える基盤になると考えています。「家括」と現在取り組んでいるモンテソリーケアを両輪として、今年も地域に根ざした介護を進めてまいります。

#ゆっくり、一緒に、楽しく
#住み慣れた自宅で快適に
#家括は暮らしのインテグレーション



優つくり事業本部 本部長
水内 利英